

いのちを守る



私たちは
かけがえのない「いのち」の
尊さを心に刻みます
そして あらゆる暴力のない
安全で安心できるまちづくりに
努力することを誓います
子どもたちの未来のためにも

平成二十年四月建立
暴力追放モニュメント建立実行委員会

2024年12月発行
暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議
事務局：長崎市 市民生活部 自治振興課内
住 所：長崎市魚の町4番1号

この冊子は、暴力のない安全で安心なまちへの想いを
次の時代へ伝えるために、クラウドファンディング型ふる
さと納税の呼びかけにご賛同いただいた全国の皆さま
からの寄附により制作しました。



—暴力のないみらいへ—

いのちを守る

—暴力のないみらいへ—



protect life

いのちを守るとは？

長崎市では、過去に子どもや市長が犠牲になる痛ましい事件が起きました。これらの事件をきっかけにして生まれた、暴力のない安全で安心なまちへの想いを次の時代にしっかりと伝え広げていくため、この冊子を制作しました。

この冊子を通じて、暴力のないみらいについて共に考え、行動するための第一歩を踏み出しましょう。

暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議

どのような理由があっても、「暴力」は許されるものではありません。しかし、今の社会にはいろんな暴力が存在しています。あなたの周りでも、気づかないうちに起こっているかもしれません。

たとえば…

犯罪

住宅街や駐車場、小学校の敷地内や新幹線の車内など、日常的な場所で凶悪犯罪が起きています。



危険な運転

近年問題になっている「あおり運転」のほか、飲酒運転や交通ルールを守らない危険な運転が増えています。



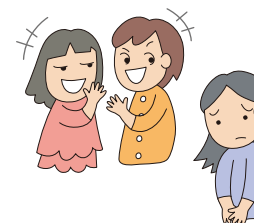
身体的な暴力

友だちや兄弟とのケンカでも、たたいたり、けったり、髪を引っ張るなどの暴力は絶対にいけません。



悪口や仲間はずし

学校や会社、グループ間などで、人の悪口を言ったり、陰口を言ったりすることも人の心を傷つける暴力です。



差別する



差別とは、人をマイナスイメージで判断してその人を社会の中で不当に扱うことです。人を差別することも精神的な暴力です。

DV

ドメスティック・バイオレンス



DVとは、配偶者や恋人など親密な関係にある男女間でふるわれる暴力のことです。身体的暴力だけでなく、精神的暴力、経済的暴力、性的暴力、社会的暴力、子どもを利用した暴力などもDVに含まれます。

SNSでの誹謗中傷



誹謗中傷とは、特定の人物（組織も含む）に対して、侮辱や嫌がらせ、デマ情報、嘘などを使って、相手の名誉や人格を傷つける暴力で、特にSNS上での誹謗中傷は広く拡散されるため、社会問題になっています。

暴力のない安全安心なまちは、私たち一人ひとりの行動から

暴力から「いのちを守る」ために、私たちはどのような行動をとればいいのか、みんなで考えてみましょう。

暴力のないみらいへ

暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議のあゆみ

- 1990年 本島等元市長銃撃事件
- 2003年 男児誘拐殺害事件
- 2007年 伊藤一長元市長銃殺事件

2008年 暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議発足

伊藤元市長が銃撃により命を落とした事件によって、暴力追放への気運がさらに高まり、長崎市、市民、事業者、関係機関などが一体となって暴力追放に取り組むことにより、市民が安全で安心して暮らすことができる地域社会を実現するため、平成20年4月に発足しました。



市民集会



暴力追放パレード

毎年4月を「暴力追放強調月間」とし、「暴力追放」や「いのちを大切にする」という想いを共有するため、市民集会の開催やパレードなど暴力追放に向けた啓発活動を行っています。

いのちを守る通信発行

定期的に暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議に関する情報を発信。安全安心のための様々な取り組みを紹介しています。



防犯パネル展



長崎市における犯罪状況や防犯対策などを紹介。防犯意識の高揚や、自主防犯活動の啓発に取り組んでいます。



いのちの碑建立

全国の個人、企業、団体からの募金により建立された石碑。高さは3.2mで「安全・安心」のAをデザイン。暴力追放の意思と「いのち」の尊さを示している。旧公会堂前に創設され、現在は魚の町公園に移設されています。

安全安心なまちのために 長崎市のとりくみ

- 2009年 長崎市安全・安心まちづくり行動計画策定
(第2次計画：2011年3月、第3次計画：2016年5月、第4次計画：2022年4月)
- 2013年 長崎市暴力団排除条例施行

長崎市では、これらの計画などをもとに、一人ひとりの防犯意識を高め、地域の人たちと協力して防犯活動をひろげ、防犯を考えた環境を整備するなど、安全安心なまちへ向けた様々な取り組みを行っています。



よかまち見回りサポーターウォーキング、ジョギング、買い物、通勤・通学などの屋外で行う日常活動の中で地域の見守りを行っています。



ヴィヴィくん、LUCAも見回りサポーターに参加



防犯カメラ
地域における見守りの体制の強化を図るため、防犯カメラの設置を行う地域団体に補助金を交付

地域のとりくみ

「自分たちのまちは自分たちで守る」という考えから、各地域では防犯協会やボランティアによるパトロール、登下校時の見守りなど地域に密着した様々な防犯活動が行われています。



橘地区パトロール隊

青色回転灯防犯パトロール(通称:青パト)市内20団体、交通指導員 市内68名、防犯協会 市内6団体(2024年12月現在)



大浦地区パトロール隊



交通指導員による立哨活動

暴力のない 安全安心なまちを目指して

暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の関係者が、
安全安心なまちづくりの実現に向けての決意を語りました。

※長崎新聞2023年(令和5年)7月23日の記事より



地域の絆をつくって犯罪予防

長崎地区防犯協会 会長 村木 啓介 氏

長崎地区防犯協会では長年にわたり、各種団体、警察と連携を図りながら安全・安心なまちづくりに寄与する活動に取り組んできました。私の本業は旅館業なので、安全で安心して暮らせるという環境はとても大事な要素です。まちが平和であってほしいと日々願っています。近年、協会ではまちの落書きを消す活動していますが、目的は景観や犯罪の未然防止のためだけではありません。自治会に呼びかけて地元の方も

一緒に作業をすることで、町内の絆づくりにつながればと思っています。地域コミュニティの希薄化が問題になっていますが、誰も孤立化させないことは犯罪防止に重要だと思います。自分たちで犯罪が起きない環境をつくるという意識も大切です。各自治会では、自主防犯パトロールなどのボランティアに取り組んでもらっています。今後も地域安全活動を推進してまいります。



「オール長崎」でいのちを守る

暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議 会長 長崎市長 鈴木 史朗 氏

長崎市民会議が発足した2008年以降、市内の犯罪は着実に減っています。市民会議の活動が一助になっていると認識するとともに、市民に「暴力を追放し、いかなる犯罪も許さず、いのちを大切にする」という思いが浸透してきたように感じます。安全安心なまちづくりの実現を目指し、市民会議は集会やパレードなど、暴力追放の機運醸成に向けた啓発活動を行ってきました。市としても、条例や行

動計画を策定したり、青色回転灯防犯パトロール団体をはじめ、地域の自主防犯活動推進のための支援をしています。市民会議の標語は「暴力追放 ひろげる人の和 いのちの輪」です。地域コミュニティの強化を図り、官民が連携して地域を守る意識を高めて行動することが大切と考えています。今後も、暴力によって引き起こされた悲慘な事件を風化させず、安全・安心なまちづくりにオール長崎で取り組んでいきたいです。



身近に潜む暴力に危機感共有

暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議 代表幹事
長崎市保健環境自治連合会 副会長 深堀 義昭 氏

長崎市で2人の現職市長が銃撃され、伊藤一長市長は命を落としました。こうした悲劇は決して繰り返してはいけなし、忘れてはなりません。ましてや市民の皆さんが一人でも暴力の犠牲になることは絶対に避けなければなりません。今こそ「暴力追放」の思いを共有し、地道に発信していくことが求められています。伊藤市長の銃撃事件から16年が経過し、昨年までの3年間は新型コロナウイルス禍に伴い啓発パレードも中止。

事件の風化や暴力に対する市民の意識の薄れも懸念されます。一方で、SNSを使った言葉による圧力や家庭内での虐待、オレオレ詐欺といった新たな形態の「暴力」も表面化しています。複雑化した社会において「暴力」の定義、形も常に変化しています。私たちのすぐそばにはいつでも暴力が潜み、誰もがその被害に合う可能性がある一。連携先を広げ、幅広い世代と危機感を共有する必要性を感じます。



暴力団排除へ市民活動を支援

長崎警察署 署長(当時) 平戸 雄一 氏

法規制の強化や社会的な暴追意識の高まりに伴い、全国的に暴力団の勢力は弱まっています。県内も同様で長崎市の伊藤一長市長が銃撃された2007年当時、600人を超える暴力団構成員等が確認されていましたが、現在は約110人。暴追効果は着実に表れています。一方で、暴力団という明確な「姿」が見えなくなり、資金獲得の手口が巧妙化する傾向も見られます。長崎市ではJR長崎駅周辺の再開発など「100年に1度」とされる

大規模なまちづくりが進んでいます。暴力団を含め、そうした犯罪勢力は「金」のある所に触手を伸ばしてくるのが常。警戒し、厳しく対処する姿勢で臨みます。不当な金銭要求を拒否しようと飲食店やホテルなど事業者でつくる「解縁隊」という縁切り同盟の活動支援も強化しています。暴力団に対し▽利用しない▽恐れない▽金を出さない▽交際しない。連携でつながりを断つ。市民一丸の力が必要です。



「いのちの碑」に願いを込めて

長崎県建設業協会 前会長(いのちの碑デザイン) 谷村 隆三 氏

2007年の伊藤一長市長射殺事件をきっかけに、市民が結集して建立した記念碑「いのちの碑」(長崎市魚の町)のデザインを担当しました。その頃、県内では衝撃的な事件が相次いで起き、暗い、嫌な雰囲気を感じていました。二度とあのような事件を起こさないで安全・安心なまちにしようという願いを象徴したのが同碑です。逆U字の縦の円柱に暴力追放への強い意志を、横に伸びる円柱に暴力を拒絶す

る人と人との連帯をイメージしています。事件の記憶が年月と共に薄れるのは当たり前です。碑として形に残すことで、暴力を許さないという当時の思いを後世の人に託しています。同碑建立の資金集めでは予想を超える寄付が集まり、余剰金は市が基金として暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会に毎年活用されてきました。これからも運動を継続できるよう、広くご賛同を得ていく仕組みが必要だと思います。

みんなが
毎日笑顔で安心
して住める町

暴力をなくすため
に「暴力をしないよう
にしよう」と声を
かける

みんな
優しく
幸せな町

みんなが
安全でえがお
でいれる町

一人一人が
人のいやがる
ことをせず
親切な街

みんなが
公平で笑顔が
あふれる町

みんなが
助け合おう

「いのちを守る」 メッセージ

「暴力をなくすためには？」
「安全安心なまちにするには？」
市民のみなさんからいただいた
「いのちを守る」メッセージをご紹介します。
この中にヒントがあるかも？

みんなが
笑顔で
安心して
暮らせるまち

関わり合い
認め合う

君の手は
みんなを救う
ためにある

暴力は
人も自分も
傷つける

「暴力」
ではなく
「対話」を

NON
VIOLENCE

暴力じゃ
何も解決しない

個性を
尊重し合う

みんなが笑顔で
あいさつできるまち

対等な対談
こそが
本物の強さを秘めている

あなたの行動が
人
を変える

暴力はX
戦争の源

暴力以外の
解決策を

みんなが
支えあえる町

困ったことが
あっても助け合う
笑顔のまち!!

みんなが
笑顔で、平和を
大いにできる町

平和で
みんなが
幸せな町

暴力のない
安全安心な
笑顔の町

困った時は
迷わず助けを
求めて平和な町

みんなが
安心安全に
暮らせる町

地域の宝
子どもを守ろう

暴力追放
安全・安心
まちづくり

自分たちのまちは
自分たちで守る!



我が子の様に
見守る!

暴力は
両者が傷つく
攻撃だ

体の痛み
は
心の痛み

暴力重犯!
社会を潔白に

人を傷つければ
いつか
自分に返ってくる

やる前に1歩止まって
冷静になろう。

平和的
解決を!

みんな
笑顔

人に
頼れる

「差別」や「偏見」
を
無くすように意識

暴力のない安全安心なまちは、すべての人が尊重され、
互いに助け合うことで築かれます。

みなさんの力がより良い未来をつくる原動力です。

一緒に暴力のない安全で安心なまちづくりに取り組んでいきましょう。